

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577200532		
法人名	有限会社 龍泉		
事業所名	グループホーム 秀東館 蓮華		
所在地	山口県岩国市周東町西長野265-1		
自己評価作成日	平成22年3月23日	評価結果市町受理日	平成22年12月10日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年4月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木材をふんだんに使用することで暖かさを演出し、住みやすさを強調しています。さらに利用者が自由に出入りが出来るよう鍵を使用せず、人員配置を多くすることで身体拘束零を目指しています。秀東館の理念である現代社会が忘れかけている家族の暖かさを大切に、一つ屋根の下でそれぞれ違った個性を持った人々が集まり生活をする。利用者は私たちの父であり母である。また、利用者同士は兄弟姉妹でもある。私たちが目指す"大家族主義"の理念を基に、職員全員が共同生活住居(グループホーム)において、食事・排泄・入浴等の介護、その日常生活上のお世話を行い、能力に応じ自立した日常生活が営んで頂ける様取り組んでいます。また、ご家族や近隣の方々の協力をいただきながら利用者の方々が、この秀東館蓮華が自分の家と思えるように取り組んでいきたいと思っています。

地域との連携、協力をとてよくとっておられます。避難訓練には地域の方も参加され、地域緊急連絡網を作成し、近所7軒へ通報体制を整えておられます。桜の花見には地域の方が7~8人参加され家族も参加して皆で出かけておられます。施設で行う運動会、クリスマス会にも地域の方の参加があります。外出支援もよく行われています。小学校の運動会に参加したり、天神祭、盆踊りに出かけたり、いちご狩り、みかん狩り、外食、おやつを食べに行く、菜の花、コスモス、アジサイの花を見に行くなど外出をよくされています。個別に1週間に1回くらい利用者が行きたい所へ外出する支援に取り組まれています。今年度は職員の利用者に対する言葉や態度に気をつけるよう、研修やミーティングを重ねたり、ホーム内の壁にも取り組み内容を掲示するなど、利用者一人ひとりの尊厳を大切にしたい取り組みをされています。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	秀東館の理念“大家族主義”を基に家族の暖かさを忘れないよう利用者に接し、蓮華独自の理念“笑顔”絶やさない介護が行えるよう、常にミーティングで話し合い、共有・実践につなげている。	法人の理念“大家族主義”を基にし、事業所独自の理念に“笑顔”を掲げ、内部研修やミーティングにおいて笑顔の対応について話し合いを行っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に入っており、集会や草引き等に参加。また年4～5回地域交流の場として行事・レクを取り入れている。	自治会に加入し、集会や草刈に参加している。お宮の天神祭へ出かけたり、小学校の運動会や盆踊りに参加している。地域の人には、ホームで開催する花見や運動会、クリスマス会に声をかけ参加してもらっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議や年5回発行の情報発信かわら版を利用し、認知症の理解や支援方法等の理解に活かしている。	/	/
4	(3)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価を基に、自分たちが気付かなかつた所を話し合い、向上に向けて改善・取り組んでいる。	管理者、職員は自己評価、外部評価を実施する意義を十分理解している。前回の外部評価結果を基に言葉使いや尊厳を守ること、拘束や虐待について話し合いを深めている。	
5	(4)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の日々の生活状況や施設での取り組み等を報告し、問題点や向上に向けて意見・協力を頂いている。尚、第三者委員の参加が希薄はため、今後の関係作りを図り、参加していただく。	家族、民生委員、自治会長、地域住民、ボランティア、地域包括支援センター職員、管理者、職員の参加で2ヶ月に1回開催している。利用者の日々の生活状況、事業所の取り組みの報告、地域の人を含めた緊急連絡網、避難訓練等について積極的に話し合いが行われている。	
6	(5)	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	気兼ねなく、気になる事やわからない事があればその都度問合せし、助言や指示を仰いでいる。	市の担当課の職員とは監査の時以来、気軽に話せる関係づくりができており、運営やサービスについて日常的な相談や指導をもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についての研修会を行い、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。	毎年1回、身体拘束についての研修会を行い、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。玄関に鍵をかけず、チャイムが鳴るようにしたり、帰宅願望で外へ出たい利用者と一緒に職員は携帯電話を持って出かけ、疲れたら電話して迎えにきてもらうなど、工夫をしている。	
8		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修会を行い、虐待について話し合いを行っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者が居られないが、権利擁護に関する知識の向上に取り組んでいる。		
10		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に事前に施設見学を勧め、施設の雰囲気や疑問点等を十分に聞き、説明を行い、理解・納得が得られるよう取り組んでいる。		
11	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に苦情や相談が出来るような雰囲気作りや処理・手続き、施設以外の受付機関の説明を十分にしている。また苦情等があった場合は速やかに対応できるように体制作り・運営に反映させている。	相談や苦情の受付体制や処理手続きを明確にし、家族に周知している。家族が面会に来られた時、話し合いをよく行い、コミュニケーションをとり、気軽に相談や苦情が出るようにして、それらを運営に反映させている。遠くの人へは電話で連絡を取っている。	・家族会の開催
12	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングにて職員の意見・意向を聞き、月に1回行う幹部職員月例報告会にて発表、反映させている。	ミーティングで職員から運営に関する意見を聴き、管理者は月1回行われる法人内の幹部職員月例報告会で意見を発表し、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>特別賞与時期に職員の勤務状態等に関するの評価を行ったり、個々の生活状況を把握し、働きやすい環境作りに取り組んでいる。</p>		
14	(9)	<p>職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている</p>	<p>内部研修を定期的に行い、福祉に関する情報や技術の向上が図れるよう取り組んでいる。</p>	<p>新人研修を年2回行ったり、内部研修を2ヶ月に1回行い、研修を受けた職員はレポートを提出し、内容の確認や把握につながるようしている。地域密着型サービス事業者連絡協議会に職員も参加し、同業者との交流が勉強の場となっている。外部研修に職員の参加は少ない。</p>	<p>外部研修を受ける機会の提供</p>
15		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域密着型サービス事業者連絡協議会を通じ、同業者との交流や意見交換・情報の提供等を行っている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>新しい環境に慣れていただくために、話し相手になり、本人の抱えている不安や悩み等を聞く、また、他利用者との交流がスムーズに行えるように配慮、安心して生活が営めるよう努めている。</p>		
17		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の困っていることや不安を十分に聞き、安心して頂ける様、常に報告・相談を行いながら、関係作りに努めている。</p>		
18		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用者の状態に応じた支援を踏まえ、情報の提供等行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意なことや経験等を生かし、参加していただいたり、利用者の意見や指示をもらい一緒に行うよう工夫をしている。		
20		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が安心して生活が営めるようご家族の協力を頂きながら支援している。		
21	(10)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会やなじみの人の面会等は本人の気持ちやご家族の意向を踏まえ、支援している。	利用者の友達などには気軽に来てもらえるように配慮しており、家に帰りたい人には、家族に連絡をし、了承した上で出かけたりしている。	
22		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の好みや行動にてトラブルとなることもあるが、職員が間に入りトラブルにならないよう配慮している。また、居室で過ごすことの多い方には声かけをしレクへの参加を促し、フロアにて過ごしていただいている。		
23		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族からの相談等があった場合、できる範囲で相談にのっている。また、入院や他施設へ入所の方には機会があれば面会に行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意見を聞き入れながら、意向に沿うよう努めている。困難な場合は、ご家族にも相談しながら行っている。	日常の会話や行動の中で利用者の思いや意向の把握に努めている。	・生活歴の把握

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の面接時に得た生活歴やなじみの暮らし方等の情報を職員全員に提供し、ケアに生かしている。		
26		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各ユニットの申し送りノートやケース記録・ミーティングを必ず目を通し、確認サインをしている。また、個別の介護チェック表にて心身の状態や食事量等、人目でわかるようにしている。		
27	(12)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な内部研修や月1回のユニット会議・ミーティング等にて統一したケアを行っている。また、その場で出た意見等を介護計画に反映している。	毎月1回各ユニットでケアカンファレンスを行い、利用者、家族の希望や意見を取り入れ、職員で話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎に検討を行い、6ヶ月毎に計画の見直しを行っている。状態の変化に応じて見直しを行っている。	
28		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や対応したケア・気づきをを記録に残し、職員間で共有、実践に活かしている。		
29		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族からの相談や利用者の状態に応じ、対応・支援を行っている。		
30		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学生・中学生の慰問や行事への参加、職場体験・地域の演芸ボランティア等の協力を頂きながら交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医又は利用者・ご家族の希望の病院と連携を図りながら適切な医療が受けられるようにしている。かかりつけ医(内科)月1回、歯科2ヶ月に1回の往診にて健康管理に努めている。</p>	<p>家族と話し合い協力医をかかりつけ医としてある場合がほとんどであるが、それぞれの病歴に関する他の医療機関においても継続受診をお願いし、情報提供も適切に行っている。かかりつけ医は月1回、歯科は2ヶ月に1回往診が行われている。</p>	
32		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>職員は利用者の日々の健康状態を把握・伝達し適切な対応ができるよう支援している。また、協力医へ電話問合せをし、相談しながら支援している。</p>		
33		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時、見舞いに行き、ご家族や看護師等にて情報交換。また、担当医に面会し、利用者の状態や今後の方向性等を相談している。</p>		
34	(14)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合の方針・同意書を作成。ご家族の意向を聞きながら、協力医の協力・職員の対応等について検討し、支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時に重度化した場合の方針を説明すると共に同意書を作成している。状態の変化があるごとに家族の気持ちや利用者の思いに注意を払い、重度化にともない家族の意向を聴き、医師に相談し、職員と話し合い、事業所としてできることの支援をしている。</p>	
35	(15)	<p>事故防止の取り組みや事故発生時の備え</p> <p>転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。</p>	<p>利用者の行方不明等を防ぐために利用者の個人情報に記載した緊急持ち出しファイルを作成している。又、利用者ひとり1人の状態の把握に努め、事故発生に備え、話し合い、研修を実施している。</p>	<p>月1回のカンファレンスや毎日のミーティング時に利用者の状態、事故防止への対応など話し、申し送りノートに記録し全体の共通理解を図っている。年に1回消防署の協力で、救急対応研修を行っている。</p>	<p>定期的な訓練の実施</p>
36	(16)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>夜間想定避難訓練や災害対策としてマニュアルを作成、点検等を行っている。また、地域のかたの協力もあり、非難訓練への参加、地域用緊急連絡網を作成している。</p>	<p>夜間を含めた災害対策のマニュアルを作成し、夜間想定避難訓練も行っている。緊急通報で法人施設への通報、協力体制をとり、地域の人への地域用緊急連絡網を作成し、協力が得られるようになっている。地域の人も参加して、避難訓練が行われている。災害に備えた備蓄も行われている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	一人ひとりの人格を尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、どんな状況にあっても思いやりのある言葉かけや対応に努めている。また、ミーティングやユニット会議において話し合っている。	利用者に対する尊敬の念や言葉づかいに関することは研修やミーティングで話し合い、ホームの壁に注意点を掲示するなど意識の向上に努めている。利用者の記録等は、人目に触れないように細心の注意を払っている。	
38		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を尊重しながら、出きる事への支援や自己決定を促す声かけを行っている。		
39		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活パターンを把握し、起床・食事等、その人のペースに合わせ支援している。		
40		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは個々に応じて、衣服選びを一緒に行っている。美容・理容はボランティアの出張サービスを利用。希望があれば美容院を利用していただいている。		
41	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会では好物を聞きながらメニューに取り入れている。食事の準備や配膳・下膳のお手伝いをして頂いている。	栄養士が献立をたて、毎日、次の日の献立の買物に行き、新鮮な食材で調理を行っている。利用者の食べたい要望があった時は対応をしたり、旬のものを取り入れたりしている。利用者と職員と一緒に準備、食事、片付けをしている。月1回外食をしたり、おやつを食べに出かけたりしている。	
42		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立を基に栄養のバランスに配慮、食事量・水分量は人目で分かるよう、介護チェック表に記入している。		
43		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	2ヶ月に1回、歯科医往診にて口腔管理をしている。また、毎食後の歯磨きを個々の能力に沿い介助を行っている。		

グループホーム 秀東館蓮華

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	おむつの当て方・選び方についての勉強会を行ったり、この状態に合わせた対応を図っている。また、排泄チェック表を利用し排泄パターンの把握に心がけている。	排泄チェック表から排泄パターンを把握し、排泄の自立を促すために、時間を見計りながらトイレ誘導をしたり、日中なるべくポータブルトイレを使わないようにしている。	
45		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動・水分の補給等を実施し、排便の促しをしている。便秘になりやすい方にはかかりつけ医と随時相談をしながら対応をしている。		
46	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日を決め、ゆっくりと入浴していただいている。入浴拒否の方や毎日希望される方についてはその都度対応をしている。	午後2時から5時までを入浴時間としている。一人ひとりがゆっくり入れるように、1日おきを目安に入浴曜日を決めている。毎日入浴を希望する場合や入浴したくない場合はその都度対応をしている。夏はシャワー浴も行い、気持ちよく過せるようにしている。	
47		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に合わせて休息を取っていただいている。		
48		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師にて薬の一包化。薬を受け取る際に薬剤師より説明を聞き、ミーティングにて報告。職員がすぐに確認が出来るように薬の説明書をファイルしている。必要な情報はフィールドバックしている		
49	(21)	活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて役割(掃除・洗濯たたみ等)をして頂いており、習慣化している。また、個別レクとして本人の希望を聞き支援していく取り組みをしている。	洗濯物干し、たたみ、料理の準備、箸を配る、縫い物、パッチワーク、ぬり絵、ゲーム、体操、干し柿作り、お茶会やお雛様の時の着物の着付けに利用者が活躍したりと一人ひとりの力を生かした場面しているづくりの支援をしている。味噌作りの話題が盛り上がり、今年は味噌作りに取り組む予定である。	
50	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に2回は外出レクを取り入れ、色々な場所へお連れしている。また、本人の希望にて外出の機会を設けている。	天気の良い日にはできるだけ散歩に出かけており、利用者の一人ひとりの希望や状況に合わせて、ドライブ(行楽地や季節の花見)や外食、買い物など外出を楽しめる支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内での金銭所持はトラブルの元となる為、外出レクや食材の買出し同伴時に利用者の能力に応じ、お金を使ってもらっている。		
52		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の意向を踏まえ、自由に電話をかけていただいている。手紙やはがきは本人に書いていただいたり、代筆したりして支援をしている。		
53	(23)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が居心地よく過ごせるよう、フロアにソファだけでなく、たたみを設置し、寝転んだり、足を伸ばしていただいたり出来るようにしている。冬には玄関にて日向ぼっこが出来るよう工夫をしている。	玄関に季節の花を飾り、フロアの壁に職員や利用者で作った作品や日々の活動の写真を飾っている。フロアは広々しており、食事用の椅子、テーブル、ソファ、畳があり利用者は思い思いの場所でくつろぐことが出来る。フロアから電車や田園風景が見え、季節感を味わうことが出来る。	
54		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓やたたみ、ソファ等思い思いの場所にて過ごせるよう工夫している。		
55	(24)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた生活用品を持参していただき、安心感を持って頂ける様配慮している。(タンスやテーブル等、以前は仏壇の持ち込みもあった)	各居室は畳敷きでベッドを持ち込んだり、畳の上に布団を敷くなど、利用者の希望にそう対応をしている。タンスや家具、使い慣れた生活用品を持ち込み本人が安心して過せるようにしている。	
56		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア周りに手すりを設置し、自立歩行の支援を図っている。トイレにはすぐに場所がわかるようにトイレプレート設置している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム秀東館 蓮華

作成日：平成 22年 7月 10日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	利用者やご家族からの相談・苦情等については、気軽に意見・相談をしていただけるような関係作りを図っているが、ご家族同士の意見交換をする場が少ない。	家族会の開催	ご家族へ、“家族会”の趣旨を説明、“家族会”の発足を図り、年1回、多くのご家族の参加がある家族親睦会（花火大会）を利用して開催して頂く。	1年
2	24	利用者の希望や意見を聞き入れながら、意向に沿うように努めているが、知人や住みなれた環境の情報が少ない。	生活歴の情報収集と把握・実施	知人との交流の機会や住み慣れた場所・したい事を多く取り入れるため、生活歴等の情報収集・把握を行い、本人の思いや意向に沿えるようにする。	1年
3	35	事故防止・再発防止等、ミーティングやカンファレンスにて検討・見直しを行っているが応急処置（転倒・誤嚥等）の際、うろたえてしまう。	転倒や誤嚥等の初期対応・応急処置の定期的訓練の実施	すべての職員が応急処置や初期対応が身につく実践できるよう、最低2回は研修・訓練を実施する。	1年
4	14	勤務調整が困難	外部研修参加の機会を増やす	勤務調整の検討	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。